

千歳市消防の沿革

年 月	事 項
大正11年 8月	・街が徐々に発展し、札幌、苫小牧を結ぶ国道沿いに約55戸の家屋が建ち並び消防機関の設置が痛感され、山崎友吉、吉野藤五郎ら有志が相図り、組頭中川種次郎村会議員以下若人35名で組織し、「千歳消防組」を創設する。装備は纏1本、ドイツ式腕用ポンプ1台、ホース20本、鳶15丁等であった。
大正12年 5月	・林野局から原木の払い下げを受け、さらに有志の寄付によって木造平屋建の「番屋」1棟を役場隣地に建設する。
昭和6年 6月	・規律訓練優秀につき「金馬れん」を贈られ表彰を受ける。
昭和10年 2月	・鉄骨製「火の見ヤグラ」を建設する。
昭和11年 4月	・組頭中川種次郎辞任し、渡部栄蔵村会議員が2代目組頭に就任する。
10月	・陸軍特別大演習及び地方行幸支援に対し、北海道庁長官から感謝状を授与される。
昭和13年 12月	・市街地の繁栄に伴い消防ポンプ自動車の購入の要望が高まり、予算の一部が村議会で可決、大半は有志の寄付金により最新鋭車(フォード38年式)1台を購入する。
昭和14年 4月	・消防制度の改正により警防団に改組、団員の増強を図り各地域にも分団を設けて防空を主眼とし、国内防衛の一翼を担った。 ・初代警防団長として渡部栄蔵就任する。
昭和19年 4月	・空襲火災と防空監視強化のため常備員2名を採用配置する。
昭和21年 5月	・常備員10名増員、進駐軍兵舎等の警備にあたる。
8月	・常備員さらに13名増員、進駐軍兵舎等の警備にあたる。
9月	・常備消防部長に山本加藤就任する。
10月	・元日本海軍で使用した消防ポンプ自動車及び三輪ポンプ自動車各1台財務局から払い下げを受け、市街地に配置する。
昭和22年 8月	・消防団条例制定、旧警防団を1団2分団制に改組し団長以下100名で組織する。常備員は全員進駐軍要員に身分変更のうえ基地内勤務となる。
10月	・進駐軍駐留に伴い火災多発の傾向から、市街地に常備制を取り、常備員1名を配置する。
11月	・常備員1名増員、2名となる。
昭和23年 5月	・常備員2名増員、4名となる。
10月	・消防本部設置、初代消防長渡部栄蔵以下6名(常備員4名)となる。
昭和26年 4月	・初代消防長渡部栄蔵退任し、2代目消防長として山崎友吉町長(事務取扱)就任する。 ・常備員2名増員、6名となる。
昭和27年 4月	・水槽付消防ポンプ自動車1台購入し本部に配置する。
6月	・消防技能競技大会において、成績優秀により北海道石狩支庁から賞状を授与される。
昭和28年 10月	・東雲町2丁目に鉄筋ブロック造平屋建の新庁舎が落成する。 ・広報車として千歳警察署から払い下げの中古車ウイリス・ジープ1台を配置する。
昭和29年 1月	・職員3名増員、9名となる。
4月	・職員1名増員、10名となる。
9月	・職員2名増員、12名となる。 ・水槽付消防ポンプ自動車1台購入し、本部に配置する。 ・水道事業開始に伴い、消火栓2基が新設される。また、庁舎横に高さ10mの鉄骨製望楼が完成し、夜間のみ立しょう開始する。
11月	・5日3時30分頃、幸町2丁目12番地から出火、職団員をはじめ駐留軍消防隊などの応援を得て敢闘するも防火用水路は工事中のため断水、17棟全焼する。

年	月	事 項
昭和30年	3月	・小型動力ポンプ(可搬式)1台購入し、本部に配置する。
	4月	・職員2名増員、14名となる。 ・昼夜連続の望楼勤務を開始する。
	5月	・2代目消防団長に前田政太郎就任する。
	9月	・11日4時26分頃、幸町1丁目16番地から出火、錦町2丁目の一部まで延焼する。札幌、苫小牧両市をはじめ、隣接市町村から消防車19台の応援を得て消火に当たるも170棟焼失、726名の被災者を出した。
昭和31年	2月	・消防委員会を開催し、消防力整備3か年計画を作成する。
	4月	・職員3名増員、17名となる。
	10月	・庁舎の一部を増改築、消防ポンプ自動車(小型動力ポンプ積載)1台購入し、本部に配置する。 ・火災防ぎょ活動に対する功績により、北海道消防協会長から表彰状を授与される。
	11月	・火災防ぎょ活動に対する功績により、北海道知事から表彰状を授与される。
昭和32年	3月	・適切なる火災防ぎょ活動に対する功績により、国家消防本部長から消防本部及び消防団が表彰される。
	4月	・職員3名増員、20名となる。
昭和33年	5月	・職員1名増員、21名となる。 ・広報車(トヨタジープ)1台購入する。
	12月	・高さ27mの鈴木式望楼と鉄筋コンクリート造一部2階建て延675㎡の庁舎が東雲町2丁目、旧千歳川埋立地に落成移転する。
昭和34年	1月	・泉郷自治消防団に小型動力ポンプ配置する。
	4月	・3代目消防長(事務取扱)に高橋為次助役就任する。
	5月	・消防長職務代理者に消防司令岩本千年男就任する。
	7月	・職員2名増員、23名となる。
	10月	・機構改革を行い、消防本部を総務・警防・予防の3係制とし、1消防署を設ける。
昭和35年	2月	・成績優秀機関として日本消防協会長から「竿頭綬」を授与される。
	4月	・職員3名増員、26名となる。
昭和36年	2月	・消防ポンプ自動車1台購入し、署に配置する。
	5月	・1日13時55分頃、幸町5丁目12の3番地から出火、さらに飛び火により千代田町6丁目の日通倉庫に延焼、農協など延30棟を全焼し、56世帯が被災する。
	7月	・職員3名増員、29名となる。
	9月	・4代目消防長(常勤の専任消防長としては初代)に岩本千年男就任、署長を兼務する。
	11月	・電話が自動式に切り替わり、火災専用電話設置される。
昭和37年	4月	・職員2名増員、消防長以下31名となる。
	7月	・日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、損害保険号と命名し、署に配置する。
昭和38年	4月	・職員2名増員、33名となる。
	8月	・都市等級調査の結果、5等級となる。
	9月	・小型動力ポンプ1台購入し、東千歳地区に配置する。
昭和39年	2月	・日本消防協会から消防団に対し、「表彰旗」授与される。
	4月	・消防団条例を改正、定数を50名から120名に増員し、東千歳分団及び支笏湖分団を新設する。
	9月	・小型動力ポンプ1台購入し、支笏湖分団に配置する。
	11月	・職員2名欠員補充。
	12月	・水槽付消防ポンプ自動車1台購入し、署に配置する。
昭和40年	4月	・長都分団及び泉郷分団を新設する。 ・職員1名増員、34名となる。

年 月	事 項
6月	・美笛分団を新設する。消防団は、団員定数 200 名、1 団・6 分団を編成し、人員の整備を完了する。
7月	・消防長兼務の署長を専任とし、2 代目消防署長に須川正直就任する。
9月	・小型動力ポンプ 1 台購入し、長都分団に配置する。
10月	・集中豪雨及び台風 24 号本道上陸のため、職員が出動し、災害対策本部の下に活動する。
11月	・王子製紙(株)及び千歳鉱山(株)から小型動力ポンプなどの寄贈を受け、支笏湖分団及び美笛分団に配置する。
昭和41年 4月	・消防専用無線電話装置を新設し、無線業務開始する。
5月	・職員 2 名増員、36 名となる。
9月	・広報車更新する。
9月	・救急車(日本消防協会補助)が 9 月 30 日署に配置され、10 月 1 日から業務を開始する。
昭和42年 4月	・職員 3 名増員、39 名となる。
7月	・本部に次長制を採用、初代次長に須川正直就任(署長を兼務)する。
9月	・小型動力ポンプ 1 台購入し、泉郷分団に配置する。
10月	・東千歳分団に機械置場を建造する。
	・消防本部庁舎を増築する。
	・支笏湖畔に防火水槽(40 m ³ 級)を設置する。
昭和43年 4月	・職員 4 名増員、43 名となる。
8月	・支笏湖分団に機械置場を建造する。
昭和44年 3月	・化学消防車を購入し、署に配置する。
4月	・職員 4 名増員、47 名となる。
9月	・朝日町 8 丁目に防災水槽(40 m ³ 級)を設置する。
	・泉郷に防災倉庫(泉郷分団機械置場)を建造する。
	・東千歳分団、長都分団、中央地区にサイレン塔を設置する。
10月	・青葉丘に防火水槽(40 m ³ 級)を設置する。
11月	・元千歳市消防団副団長荒川作次氏「勲六等単光旭日章」を受章する。
12月	・元千歳市消防団副団長荒川作次氏(昭和 44 年 3 月退職)より小型動力ポンプ 1 台の寄贈を受け、美笛分団に配置する。
昭和45年 3月	・「千歳消防の歌」を作成し、発表する。
4月	・職員 4 名増員、51 名となる。
	・千歳市消防団長前田政太郎氏「勲五等瑞宝章」を受章する。
	・消防本部に総務・予防の 2 課制を採用する。
9月	・消防本部庁舎増築。
	・千歳市消防団長前田政太郎氏から小型乗用車 1 台の寄贈を受け、消防本部に配置する。
10月	・長都分団に機械置場を建造する。
11月	・支笏湖、協和地区にサイレン塔を設置する。
12月	・北信濃に富丘出張所を開設、職員 6 名、車両 1 台を配置する。
	・屈折梯子付消防ポンプ自動車(16m級) 1 台購入し、署に配置する。
昭和46年 3月	・水槽付消防ポンプ自動車(3号車)更新する。
4月	・職員 4 名増員、55 名となる。
6月	・広報車更新及び作業車購入する。
8月	・東丘地区にサイレン塔を設置する。
9月	・美笛分団に機械置場を建造する。
11月	・水槽付消防ポンプ自動車(2号車)更新する。
	・庁舎裏に訓練塔(鉄骨 15m)を設置する。
12月	・高速道路の開通に伴い、日本道路公団から救急自動車 1 台の無償譲渡を受ける。
昭和47年 2月	・札幌オリンピック冬季大会にて恵庭岳滑降競技場の警戒その他の業務で職員

年 月	事 項
	を派遣する。
昭和48年 4月	・職員4名増員、59名となる。
	・消防署富丘出張所に「愛の鐘」一式贈呈される。
7月	・千歳市消防創設50周年記念式典行う。
10月	・防火水槽(40 m ³ 級)を支笏湖畔に2基、千歳駅西口に1基設置する。
11月	・釜加地区にサイレン塔を設置する。
昭和48年 1月	・千歳市内に危険物安全協会発足する。
3月	・消防庁長官より、「竿頭綬」を受ける。
4月	・職員4名増員、63名となる。
5月	・日本損害保険協会より消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
9月	・30日2時30分頃、幌美内の支笏湖プリンスホテルから出火した火災は市街地所在の署から火災現場までの距離であったために全焼となり、支笏湖分遣所の設置が検討された。
昭和49年 11月	・支笏湖分団に消防ポンプ自動車を配置する。
4月	・職員4名増員、67名となる。
9月	・消防署に技術係及び担当主任制度を設ける。
	・支笏湖分遣所落成(5月から職員1名派遣)する。
10月	・北海道防災総合訓練(市街地における航空機事故災害想定)を旧末広小学校跡地で実施する。
昭和50年 3月	・消防ポンプ自動車(9号車)購入する。
4月	・職員3名増員、70名となる。
6月	・事業推進に対する功績により、北海道消防協会長から感謝状を授与される。
7月	・婦人防火委員を10名に委嘱する。(第1期)
8月	・パシフィックエンタープライズ株式会社より積載車1台の寄贈を受ける。
	・北栄2丁目に防火水槽(40 m ³ 級)を設置する。
昭和51年 11月	・小型動力ポンプ付積載車1台購入する。
3月	・消防ポンプ自動車(8号車)更新する。
8月	・第1回少年消防クラブ北海道地区大会が当市において開催される。
10月	・全消会空港消防特別委員会が当市において開催される。
	・4代目消防長岩本千年男退任し、5代目消防長に須川正直就任する。
12月	・水槽付消防ポンプ自動車(1号車)1台購入する。
昭和52年 1月	・千歳危険物安全協会より広報車(2号車)1台寄贈を受ける。
	・消防署に副署長制を設ける。
3月	・大型水槽車(タンク容量10,000 ㍓)購入する。
4月	・職員4名採用(うち2名欠員補充)、72名となる。
	・婦人防火委員定員を10名増員し、20名に委嘱する。(第2期)
7月	・消防庁舎建設事業第1期分(躯体工事等)着工する。
8月	・第2回少年消防クラブ北海道地区大会が当市において開催される。
	・千歳ライオンズクラブより救助工作車の寄贈を受ける。
	・北栄1丁目に防火水槽(40 m ³ 級)を設置する。
12月	・千歳鉾山人員整理により美笛分団を廃団する。
昭和53年 3月	・駒里分団を新設する。
4月	・職員4名増員、76名となる。
	・作業車更新する。
8月	・第1回千歳地区少年消防クラブ総合大会が開催される。
9月	・支笏湖分団の消防ポンプ自動車更新に伴い、水槽付消防ポンプ自動車(7号車)を配置する。
	・日の出小学校の校庭内に防火水槽(40 m ³ 級)を設置する。
10月	・3代目消防署長に佐藤吉春就任する。
11月	・千歳市消防総合庁舎完成する。(鉄骨鉄筋コンクリート造2階建て床面積

年 月	事 項
昭和54年 2月	2,617.34 m ²)
3月	・ 広報車更新する。
4月	・ 3代目消防団長に浅見恒松就任する。
7月	・ 職員3名採用(うち1名欠員補充)、78名となる。 ・ 婦人防火委員定員を10名増員し、30名に委嘱する。(第3期)
9月	・ 職員1名欠員補充。 ・ 北海道消防操法訓練大会ポンプ車の部に札幌地方支部の代表として出場し、成績優秀により北海道知事から賞状を授与される。
10月	・ 消防ポンプ自動車(6号車)を更新する。 ・ 末広8丁目及び住吉2丁目に防火水槽(40 m ³ 級)各1基を設置する。
昭和55年 4月	・ 職員4名増員、82名となる。 ・ 4代目消防署長に高橋五郎就任する。
昭和56年 10月	・ 高台5丁目及び新富3丁目に防火水槽(40 m ³ 級)各1基を設置する。
昭和56年 3月	・ 救急2号車更新する。
4月	・ 職員4名増員、86名となる。 ・ 婦人防火委員を30名に委嘱する。(第4期)
9月	・ 署長退任に伴い、消防長が署長兼務する。
昭和57年 10月	・ 信濃2丁目及び自由ヶ丘2丁目に防火水槽(40 m ³ 級)各1基を設置する。
昭和57年 2月	・ 成績優秀機関として消防庁長官から「表彰旗」を授与される。
4月	・ 職員1名欠員補充。
8月	・ 千歳ライオンズクラブより15人乗りマイクロバスの寄贈を受ける。
昭和58年 11月	・ 花園3丁目に防火水槽(40 m ³ 級)を設置する。
昭和58年 2月	・ 梯子車(41m級)を購入する。
4月	・ 職員7名採用(うち2名欠員補充)、91名となる。 ・ 婦人防火委員を30名に委嘱する。(第5期)
8月	・ 日本消防協会より広報車1台寄贈を受ける。
9月	・ 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
10月	・ 2代目消防本部次長に北山真一就任する。 ・ 職員1名増員、92名となる。
12月	・ 広報車1台を購入する。 ・ 富丘4丁目及び北斗3丁目に防火水槽(40 m ³ 級)各1基を設置する。
昭和59年 4月	・ 職員4名増員、96名となる。
10月	・ 5代目消防署長に北山真一就任(次長が署長を兼務)する。 ・ 組織機構の改革に伴い、消防署に副長制を設け、警備・予防・技術・通信救急の4係制となる。
11月	・ 泉沢向陽台地区に向陽台出張所を開設、職員11名、車両3台を配置する。
12月	・ 水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、向陽台出張所に配置する。 ・ 備蓄倉庫兼車庫(117.82 m ²)を庁舎裏に建設する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
昭和60年 4月	・ 職員1名欠員補充。 ・ 元千歳市消防署長高橋五郎氏「勲五等瑞宝章」を受章する。 ・ 婦人防火委員定員を5名増員し、35名に委嘱する。(第6期)
6月	・ 第37回北海道消防大会を千歳市民文化センターにて開催する。(参集人員2,800名)
10月	・ 富士4丁目(40m ³ 級)及び臨空工業団地内(100m ³ 級)に防火水槽を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
12月	・ 水槽付消防ポンプ自動車(2号車)更新する。
昭和61年 1月	・ 型化学消防自動車1台購入し、署に配置する。

年 月	事 項
昭和62年	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員5名採用(うち3名欠員補充)、98名となる。 ・5代目消防長須川正直退任し、6代目消防長に北山真一、6代目消防署長に三谷宣儀就任する。 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急自動車(1号車)を更新する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金) <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報2号車更新する。 <p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水町に防火水槽(100m³級)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員3名増員、定員101名となる。 ・3代目消防団長浅見恒松退任し、4代目消防団長に細川誠一就任する。 ・婦人防火委員を35名に委嘱する。(第7期) <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日19時52分頃、航空自衛隊千歳基地の覆土式屋外タンク貯蔵所(第4類第1石油類(JP-4))が落雷により出火した火災は、消防機関や各自衛隊を合わせ延人員206名、車両42台を動員した。 <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東千歳分団車庫を由仁町三川より当市幌加に移転新築する。 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅ヶ丘・桜木地区に防火水槽(40m³級)を設置する。 <p>昭和63年</p> <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3代目消防本部次長に三谷宣儀就任(消防署長が消防本部次長を兼務)する。 ・組織機構の改革に伴い、消防本部に警防課、署に警備1課・警備2課・指導課を新設し、本部3課・署3課・2出張所・1分遣所体制となる。 ・元千歳市消防団長浅見恒松氏「勲五等瑞宝章」を受章する。 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支笏湖分遣所に職員4名を配置し、隔日勤務体制となる。 ・広報1号車更新する。 <p>平成元年</p> <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水槽付消防ポンプ自動車(1号車)更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員4名採用(うち1名欠員補充)、定員104名となる。 ・婦人防火委員を35名に委嘱する。(第8期) ・元千歳市消防長岩本千年男氏「勲五等双光旭日章」を受章する。 <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第44回国民体育大会(軟式野球)の開催に伴う消防警備を実施する。 <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報車1台購入する。(西出張所用広報7号車) <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防用水路蘭越取水口改修により消防用水路が復旧する。 ・新川地区にサイレン塔を設置する。 <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織機構の改革に伴い、指導課を日勤体制とする。 <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上長都地区に西出張所を開設、職員11名、車両2台を配置する。 <p>平成2年</p> <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水槽付消防ポンプ自動車(3号車)購入し、西出張所に配置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6代目消防長北山真一退任し、7代目消防長に松浦堅治就任する。 ・向陽台出張所に水槽付消防ポンプ自動車1台配置(配置替)し、車両3台体制とする。 <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道消防操法訓練大会小型ポンプ車の部に札幌地方支部の代表として出場する。 ・小型動力ポンプ付積載車更新する。(東千歳分団) <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型動力ポンプ付積載車更新する。(長都分団) <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業車更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) ・新富1丁目及び自由ヶ丘4丁目に防火水槽(40m³級)各1基を設置する。 <p>平成3年</p> <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救助工作車 型を購入。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)署に配置し、兼任救助隊を発足する。 ・西出張所に消防ポンプ自動車1台配置(配置替)し、車両3台体制とする。 <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富丘出張所を増改築する。 <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員3名採用(うち1名欠員補充)、定員106名となる。 ・婦人防火委員の定員を5名増員し、40名に委嘱する。(第9期) <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員1名欠員補充。 ・組織機構の改革に伴い、本部予防課の主査を廃止し消防設備係を新設、消防署指導課を消防課に改め係を消防係、指導係とし、支笏湖分遣所を支笏湖温

年 月	事 項
	泉出張所に改め職員 4 名体制とする。
9 月	・ 4 週 6 休制が実施され、消防本部及び消防署消防課が第 2 ・ 第 4 土曜日閉庁となる。
10 月	・ 支笏湖温泉出張所 1 名増員し、5 名体制となる。
11 月	・ 広報 6 号車更新し、白樺 2 丁目に防火水槽(40 m ³ 級)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
12 月	・ 屈折梯子付消防自動車(25m級)購入する。(自治省消防庁補助金)
平成 4 年 3 月	・ 17 日 8 時 50 分頃、道央自動車道上り車線 30.4km 地点(上長都)から 29.2km 地点付近(恵庭市)までの区間で、約 1.2 km にわたり大型バス・トラック・乗用車等 186 台が連続して衝突し、死者 2 名・重軽傷者 108 名を出す多重衝突事故が発生する。
4 月	・ 職員 5 名採用(うち 1 名欠員補充)、定員 110 名となる。 ・ 次長兼務の署長を専任とし、7 代目消防署長に江平等就任する。 ・ 支笏湖温泉出張所長を日勤とする。 ・ 市長部局へ 1 名出向し、防災業務の事務を担当する。 ・ 向陽台出張所に消防ポンプ自動車(9 号車) 1 台配置(配置替)する。
7 月	・ 千歳市消防創設 70 周年記念式典行う。
11 月	・ 元千歳市消防本部主幹岩本功氏「勲六等瑞宝章」を受章する。
12 月	・ 泉郷地区に消火栓 2 基設置及び空気呼吸器 20 体購入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 5 年 1 月	・ 広報 3 号車更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
3 月	・ 救急自動車更新により準高規格救急自動車購入する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
4 月	・ 職員 7 名採用(うち 1 名欠員補充)、定員 117 名となる。 ・ 7 代目消防長松浦堅治退任し、8 代目消防長に三谷宣儀、4 代目消防本部次長に神野寛就任する。 ・ 組織機構の改革に伴い、署警備 1 ・ 2 課通信救急係を廃止し救急救助係及び指令係を新設する。 ・ 北海道消防学校へ教官として職員 1 名派遣する。 ・ 婦人防火委員の定員を 10 名増員し、49 名(1 名欠員)に委嘱する。(第 10 期)
5 月	・ 第 46 回全国消防長会人事教養委員会を千歳市にて開催する。
6 月	・ 完全週休二日制が実施される。
9 月	・ 日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈を受ける。
12 月	・ 消火栓 8 基更新及び空気呼吸器 20 体購入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 6 年 3 月	・ 消防緊急通信指令施設(型)導入し、運用開始する。(自治省消防庁補助金) ・ 指揮本部車購入する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
4 月	・ 職員 3 名採用(うち 2 名欠員補充)、定員 118 名となる。 ・ 組織機構の改革に伴い、本部警防課に防災企画係を新設する。 ・ 庁舎裏埋蔵文化財管理センターの移転に伴い、消防用資器材管理倉庫として建物引継ぎを受ける。(2 階建、延べ 458.25 m ²)
7 月	・ 団本部に女性消防団員 5 名が採用される。
11 月	・ 泉郷地区の分団車庫兼倉庫及びサイレン塔を新築する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 7 年 3 月	・ 救急自動車更新により準高規格救急自動車購入する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
4 月	・ 職員 2 名採用(うち 1 名欠員補充)、定員 119 名となる。 ・ 団本部に女性消防団員 5 名が採用され、10 名となる。 ・ 4 代目消防団長細川誠一退任し、5 代目消防団長に小柳重信就任する。 ・ 婦人防火委員の定員を 10 名増員し、60 名に委嘱する。(第 11 期)

年 月	事 項		
平成 8 年	9 月	・ 化学防護服(3着)購入する。	
	10 月	・ 支笏湖温泉出張所 1 名増員し、6 名体制とする。	
	11 月	・ 元千歳市消防署向陽台出張所長山崎清吉氏「勲六等単光旭日章」を受章する。	
	1 月	・ 広報車 1 台更新し、向陽台出張所に配置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)	
平成 9 年	2 月	・ 大型水槽車(タンク容量 10,000 ㍓)更新する。(自治省消防庁補助金)	
	3 月	・ 泉郷地区に防火水槽(40m ³ 級)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)	
		・ 駒里分団の小型動力ポンプ付積載車を更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)	
	4 月	・ 職員 8 名採用(うち 1 名欠員補充)、定員 125 名となる。	
	9 月	・ 団本部に女性消防団員 1 名(欠員補充)が採用される。	
		・ 救急救命士業務に伴う器具(除細動・気管内挿入管・輸液セット)及び訓練機材購入する。	
	10 月	・ 8 代目消防長三谷宣儀退任し、9 代目消防長に神野寛就任(次長を兼務)する。	
	11 月	・ 祝梅出張所準備室を新設、職員 2 名配置する。	
		・ 元千歳市消防団長細川誠一氏「勲五等瑞宝章」を受章する。	
	3 月	・ 東丘地区のサイレン塔を移転新築する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)	
	平成 10 年	4 月	・ 広報車 1 台(石油貯蔵施設立地対策等交付金)及び水槽付消防ポンプ自動車 1 台購入する。
4 月		・ 職員 5 名採用(うち 2 名欠員補充) 定員 128 名となる。	
		・ 支笏湖温泉出張所 1 名増員し、7 名体制とする。	
8 月		・ 5 代目消防本部次長に古源紘宇、7 代目消防署長江平等退任し 8 代目消防署長に金雅志就任する。	
		・ 組織機構の改革に伴い、消防課を廃止し、警備課に指導係、警防課に主査を設ける。	
8 月		・ 流通地区に祝梅出張所を開設、職員 11 名、車両 3 台を配置する。	
		・ 団本部に女性消防団員 3 名採用(うち 1 名欠員補充)、12 名となる。	
12 月		・ 婦人防火委員の定員を 10 名増員し、69 名(1 名欠員)に委嘱する。(第 12 期)	
		・ 千歳市防災総合訓練(航空機災害想定)を泉沢臨空工業団地内で実施する。	
平成 10 年		2 月	・ 北陽 3 丁目に耐震性防火水槽(60 m ³ 級)、協和地区にサイレン塔を設置する。さらに広報車 1 台更新し、消防署に配置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
		2 月	・ 消防ポンプ自動車 1 台更新し、向陽台出張所に配置する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)
平成 11 年	3 月	・ 救急救命士による救急業務の試験運用を開始する。	
	4 月	・ 職員 5 名採用(欠員補充)、定員 128 名となる。	
	5 月	・ 団本部に女性消防団員 3 名採用、15 名となる。	
	6 月	・ 救急救命士による救急業務の本格運用を開始する。(1 隊)	
	11 月	・ 成績優秀機関として北海道消防協会から「表彰旗」を授与される。	
		・ 元千歳市消防長須川正直氏「勲五等双光旭日章」を受章する。	
	12 月	・ 原因調査用車両 1 台、消防用ホース 160 本(差し込み式)の更新と若草 3 丁目に耐震性防火水槽(60 m ³ 級) 1 基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)	
	平成 11 年	4 月	・ 5 代目消防団長小柳重信退任し、6 代目消防団長に大谷勇一就任する。
		・ 9 代目消防長神野寛退任し、10 代目消防長に金雅志、9 代目消防署長に廣世平夫就任する。	
	平成 12 年	3 月	・ 職員 1 名採用(欠員補充)する。
			・ 婦人防火委員を 70 名に委嘱する。(第 13 期)
3 月		・ 元千歳市消防団副団長阿部常夫氏「勲七等青色桐葉章」を受章する。	
		・ 業務帽(アポロキャップ式)を導入し、略帽を廃止する。	
・ 石油貯蔵施設立地対策事業として、支笏湖広報車 1 台、消防用ホース 170 本、			

年 月	事 項
平成13年	<p>耐震性防火水槽(60^m級・稲穂3丁目)1基を、防衛施設周辺民生安定施設整備事業として、消防ポンプ自動車(富丘ポンプ)1台を、空港環境整備協会助成事業として、人員搬送車(29人乗りマイクロバス)1台を更新整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有珠山噴火に伴い、北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊を伊達市及び虻田町へ派遣する。(3月30日～5月8日 延79隊、188名) ・職員3名採用(欠員補充)、定員127名となる。 ・組織機構の変革に伴い、消防本部に主幹(消防団担当)を配置する。 ・6代目消防本部次長に廣世平夫、10代目消防署長に古源紘宇就任する。 ・元千歳市消防団長小柳重信氏「勲六等単光旭日章」を受章する。
	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油貯蔵施設立地対策等交付金事業として消防署広報車1台、消防用ホース160本、耐震性防火水槽(60^m級・長都駅前4丁目)1基を、空港環境整備協会助成事業として水槽付消防ポンプ自動車(祝梅水槽)1台を更新整備する。
	<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長都分団車庫及びサイレン塔を移転新築する。
	<p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防長(勲五等双光旭日章)故岩本千年男氏叙位(正六位)を授かる。
	<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員5名採用(うち2名欠員補充)、定員130名及び市長部局1名出向となる。 ・機構改革に伴い、消防本部の主幹(消防団担当)を廃止し、警防課に主査(消防団担当)を配置する。 ・10代目消防長金雅志退任し、11代目消防長に廣世平夫、7代目消防本部次長に高畠敏明就任する。 ・千歳第一分団の2分団化を図り、千歳第一分団及び千歳第二分団とする。 ・千歳市婦人防火委員の名称を千歳市女性防火委員に改正する。 ・女性防火委員を70名に委嘱する。(第14期) ・支笏湖温泉出張所を移転新築する。 ・難燃性作業服を導入する。
	<p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全消会道支部道央地区協議会平成13年度予防・危険物事務研究会を千歳市にて開催する。
	<p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港環境整備協会助成事業として、災害用エアータント1張を購入整備する。
	<p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・向陽台出張所2名増員し、13名体制とする。 ・高規格救急車(千歳救急3)1台を購入整備する。(空港環境整備協会助成事業) ・向陽台出張所へ救急1号車を配置し、救急業務を開始する。
	<p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震性防火水槽(60^m級・幌加:東千歳中学校敷地内)1基設置、消防用ホース170本を更新整備する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	<p>平成14年</p>
<p>1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千歳消防創設80周年記念祝賀会行う。 	
<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千歳消防初の女性消防吏員1名を含め職員5名採用(うち2名欠員補充)、定員133名及び市長部局1名出向となる。 ・10代目消防署長古源紘宇退任し、11代目消防署長に森 満就任する。 ・消防本部総務課庶務係の名称を総務係に変更する。 	
<p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道消防操法訓練大会ポンプ車の部に札幌地方支部の代表として出場する。 	
<p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防団分団長故石塚雄一氏「勲六等瑞宝章」を受章する。 	
<p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防団分団長秋元敏雄氏「勲六等瑞宝章」を受章する。 	
<p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元消防長故神野寛氏「従六位・勲五等瑞宝章」を受章する。 	
<p>平成15年</p>	
<p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セパレーツ型防火衣74着を導入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) ・耐震性防火水槽(60^m級・文京3丁目:シカ公園内)1基設置する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金) ・千歳ポンプ更新する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金) 	
<p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性消防吏員1名を含め職員5名採用(うち2名欠員補充)、定員136名となる。 ・11代目消防長廣世平夫退任し、12代目消防長に高畠敏明、8代目消防本部次長に登坂修之就任する。 ・6代目消防団長大谷勇一退任し、7代目消防団長に荒川重昭就任する。 	

年 月	事 項
	<ul style="list-style-type: none"> ・機構改革に伴い、救急救助係の名称を救急係に変更し、救急専従隊の2隊運用を開始する。 ・千歳市女性防火委員の名称を千歳市防火委員に改正する。 ・防火委員を70名に委嘱する。(第15期)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・出光興産株式会社北海道製油所タンク火災・警戒に伴い、北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊を苫小牧市へ派遣する。(9月29日～10月18日延11隊、55名)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防署向陽台出張所長高田幸雄氏「瑞宝単光章」を受章する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性貯水槽(60m³級・清流2丁目：クワガタ公園内)1基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成16年1月	<ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防署長故江平等氏「従六位・瑞宝双光章」を受章する。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・セパレーツ型防火衣62着を導入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格救急車(千歳救急4)1台を購入整備する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金) ・支笏湖温泉出張所へ救急2号車を予備車として配置する。 ・女性消防吏員1名を含め職員4名採用(欠員補充)、市長部局1名出向となる。 ・9代目消防本部次長に今井茂就任、11代目消防署長森満退任し、12代目消防署長に登坂修之就任する。 ・機構改革に伴い、本部予防課に是正係を新設、署警備課の指導係、機械係を廃止、署に査察課を新設し指導係及び査察係を配置する。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防署富丘出張所長高橋正美氏「瑞宝単光章」を受章する。 ・元千歳市消防団長大谷勇一氏及び元千歳市消防団副団長坂野春雄氏「瑞宝単光章」を受章する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性貯水槽(60m³級・大和4丁目：希望公園内)1基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成17年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳水槽2更新する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員3名採用(欠員補充)する。 ・12代目消防長高畠敏明退任し、13代目消防長に登坂修之、13代目消防署長に小林幸治就任する。 ・元千歳市消防署富丘出張所長石塚達雄氏「瑞宝単光章」を受章する。 ・防火委員を68名に委嘱する。(第16期)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防署向陽台出張所長松田芳三氏「瑞宝単光章」を受章する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・熱画像直視装置を1台整備する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) ・西出張所広報車1台を更新整備する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) ・耐震性貯水槽(60m³級・あずさ2丁目：あずさ1号公園内)1基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成18年2月	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格救急車(千歳救急1)1台を更新整備する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員3名採用(欠員補充)、総数135名となる。市長部局1名出向となる。 ・10代目消防本部次長に小林幸治、14代目消防署長に今井茂就任する。 ・機構改革に伴い、署の査察課を廃止し、警備課に査察係を配置する。 ・元千歳市消防署富丘出張所長中村守氏、元千歳市消防団副団長信田茂氏「瑞宝単光章」を受章する。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防署西出張所長野口健氏「瑞宝単光章」を受章する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性貯水槽(60m³級・北光6丁目：ひばりが丘2号公園内)1基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成19年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員総数131名となる。 ・13代目消防長登坂修之退任し、14代目消防長に小林幸治、11代目本部次長に土居裕就任する。 ・機構改革に伴い、本部予防課の是正係、本部警防課のMC担当主査を廃止し、警備課に指導係を配置する。

年 月	事 項
平成 20 年 10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・防火委員を 70 名に委嘱する。(第 17 期) ・元千歳市消防署祝梅出張所長高嶋正之氏「瑞宝単光章」を受章する。 ・緊急消防援助隊 北海道・東北ブロック合同訓練(岩手県一関市)に職員 2 名参加する。
平成 20 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・救助工作車(千歳救助)を更新する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
平成 20 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員 4 名採用(欠員補充) 総数 130 名となる。市長部局 1 名出向となる。北海道防災航空室 1 名派遣する。(総務課付) ・機構改革に伴い、本部に主幹(消防広域化担当)を配置する。 ・元千歳市消防署向陽台出張所係長中村正次氏、元千歳市消防団長荒川重昭氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 20 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 90 回全国消防長会財政委員会を千歳市にて開催する。
平成 20 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道洞爺湖サミット 2008」開催に伴う消防特別警戒実施のため、全国の消防本部から応援を受けて、消防総合庁舎内に千歳地区警戒本部を設置し警戒を実施する。(7 月 5 日～11 日 消防部隊 10 隊 88 名、情報員 4 名、予防警戒員 12 名) ・「ジュニアエイトサミット 2008 千歳支笏湖」開催に伴い、支笏湖地区において消防特別警戒を実施する。
平成 20 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防長三谷宣儀氏、元千歳市消防長金雅志氏、元千歳市消防本部次長古源紘宇氏「瑞宝双光章」を受章する。
平成 21 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・富丘水槽を更新する。(防衛施設周辺民生安定施設整備事業) ・高規格救急車(千歳救急 2)を更新する。(空港環境整備協会助成事業)
平成 21 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員 3 名採用(欠員補充)する。 ・機構改革に伴い、本部主幹に主幹付係員を配置し、署の警備課に配置していた救急係及び指令係を分離し、救急指令課として新設する。 ・防火委員を 69 名に委嘱する。(第 18 期) ・元千歳市消防長廣世平夫氏「瑞宝双光章」を受章する。
平成 21 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会実施する。
平成 21 年 7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員総数 129 名となる。
平成 21 年 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員 1 名採用(欠員補充) 総数 130 名となる。 ・平成 21 年度全国消防長会北海道支部総務委員会を千歳市にて開催する。
平成 21 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・元千歳市消防署支笏湖温泉出張所長田畑俊春氏、元千歳市消防本部警防課係長和泉宗雄氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 22 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防査察車(千歳連絡)を更新する。(地域活性化・経済危機対策臨時交付金) ・消火栓 10 基更新する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) ・耐震性貯水槽(60 m³級・春日町 1 丁目：春日公園内) 1 基設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金) ・第 2 回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会実施する。
平成 22 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳水槽 1 を更新する。(空港環境整備協会助成事業)
平成 22 年 3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会実施する。
平成 22 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員 2 名採用(欠員補充)する。 ・14 代目消防長小林幸治退任し、15 代目消防長に土居裕、12 代目本部次長に水森昭治、14 代目消防署長今井茂退任し、15 代目消防署長に上原高司就任する。 ・元千歳市消防署長森 満氏「瑞宝双光章」、元千歳市消防団分団長千葉信一氏、元千歳市消防本部主幹(消防団担当)福岡博彦氏「瑞宝単光章」受章する。
平成 22 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・職員 1 名採用、総数 131 名となる。 ・機構改革に伴い、本部主幹に主幹付主査を新設する。 ・第 4 回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会実施する。